

皇大神宮別宮  
倭姫宮



神宮司庁

〒516-0023 三重県伊勢市宇治館町1  
電話 0596-24-1111(代)  
<https://www.isejingu.or.jp/>



アクセスマップ



所在地：伊勢市楠部町5 電話：0596-22-2973  
アクセス：JR.東海 伊勢市駅より 約1.7キロメートル  
近鉄宇治山田駅より 約1.2キロメートル  
バス停「徴古館前」下車 徒歩1分



倭姫宮

倭姫宮は、内宮と外宮を結ぶ御幸道路の中ほど倉田山にあり、皇大神宮(内宮)の別宮で、倭姫命をお祭りします。倉田山は、神宮徴古館 農業館・神宮美術館・神宮文庫・皇學館大学などが立ち並ぶ丘陵です。西方の四ヘクタールの森が当宮の宮域です。

御幸道路に面した鳥居から続く表参道は緑に包まれ、地形に沿ってなだらかな石段の続く美しい風景は多くの参拝者に親しまれています。

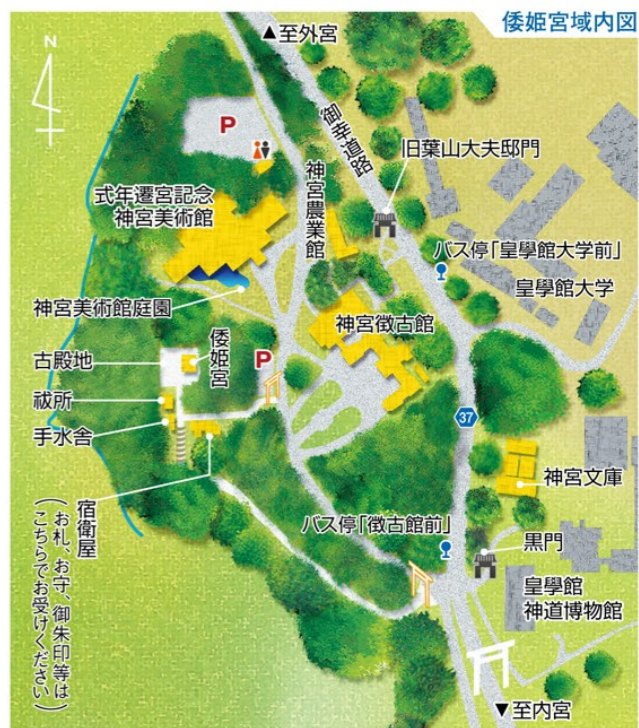
伊勢の神宮

「お伊勢さん」と親しまれる伊勢の神宮は、二千年に及ぶ悠久の歴史を有し、皇室の御祖神をお祭りする宮として、全国からの崇敬を集めています。

正式名称は「神宮」であり、神宮は、皇大神宮(内宮)、豊受大神宮(外宮)の両正宮を中心として十四所の別宮、百九所の摂社・末社・所管社合わせて百二十五の宮社の総称です。これらの宮社は、広く伊勢・松阪・鳥羽・志摩の四市、度会・多気(二郡)にわたって鎮座しています。神宮では、日々、日本の平安や五穀の豊穰などをお祈りし、年間千数百回にのぼるお祭りが行われています。



倭姫宮域内図



十四所の別宮

神宮には、皇大神宮に荒祭宮、月讀宮、月讀荒御魂宮、伊佐奈岐宮、伊佐奈彌宮、瀧原宮、瀧原竝宮、伊雜宮、風日祈宮、倭姫宮の十所、豊受大神宮に多賀宮、土宮、月夜見宮、風宮の四所、合わせて十四所の別宮があります。

別宮とは、正宮(本宮)に対する別宮(別け宮)であり、正宮につぐ重要なお宮です。古くは天皇の勅書により、後には官符をもって、宮号を宣下された神社だけが宮号を称しました。現在も、年間のさまざまなお祭りや式年遷宮は正宮に準じて行われます。





# 倭姫宮

御祭神 倭姫命

倭姫命は第十一代垂仁天皇の皇女で、約二千年前、天照大神の御神教を受けて、五十鈴川のほとり、現在の場所に皇大神宮をご創建なさいました。神嘗祭(正しくはカンナメのまつり)をはじめとする年中のお祭りや神田ほか各種の御料地などをお定めになり、齋戒や祓の法をお示しになるなど、神宮のお祭りと経営の規模を確立されました。

その後、代々の天皇は未婚の皇女を伊勢に遣わし、皇大神宮に奉仕させられました。

このお方を齋王(齋宮または齋内親王)と申し上げます。

## 倭姫命の二巡幸

倭姫命のご巡幸は、『日本書紀』や『皇太神宮儀式帳』に記されています。初代神武天皇以来、天照大神は皇居内でお祭りされてきました。しかし、第十代崇神天皇の御代、皇居の外でお祭りされることとなり、皇女・豊鍬入姫命が大和の笠縫邑に神籬を立ててお祭りされました。その後、第十一代垂仁天皇の皇女・倭姫命が豊鍬入姫命と交替され、新たに「大神を鎮め坐させむ処を求めて」、つまり永遠に安定した神事をつづけることができる最適の地を求めて、大和の国を發たれ、伊賀・近江・美濃等の諸国を経て伊勢国に入られました。『日本書紀』によると、そのとき、天照大神は、「是の神風の伊勢の国は、常世之浪重浪帰する国なり。傍国可憐国なり。是の国に居らむと欲ふ」と倭姫命にお教えになりました。

『皇大神宮儀式帳』には、豊鍬入姫命及び倭姫命のご巡幸地の記載があり、十四箇所の比定地があげられています。

このご巡幸は、阿倍・和珥・中臣・物部・大伴の五大夫を伴う長旅で、一説には、立ち寄った各地に米づくりを伝えたともいわれています。



- 1 三輪の御諸の宮
- 2 宇太の阿貴の宮
- 3 佐佐波多の宮
- 4 伊賀の穴穂の宮
- 5 阿閉柘殖の宮
- 6 淡海の坂田の宮
- 7 美濃の伊久良賀波の宮
- 8 伊勢の桑名の野代の宮
- 9 鈴鹿の小山の宮
- 10 壹志の藤方の方樋の宮
- 11 飯野の高宮
- 12 多気佐々牟進の宮
- 13 玉岐波流磯の宮
- 14 佐古久志呂宇治の家田の田上の宮

## 倭姫命の御教え

倭姫命は、神宮所属の宮社や禰宜・大物忌などの奉仕者の職掌、お祭りの仕方をお定めになったほかにも、多くの御教えをお示しになりました。これが、神職の奉仕の指針となり、世に広まりました。『倭姫命世記』には、倭姫命が宣下された御教えが多く伝えられており、人々に大変尊重されてきました。人は神から命を分け与えられたものであり、その真心をそこなうことなく、正直で清浄な敬神生活を送るべきこと。自然の秩序さながらに神仕えの誠をつくす左々右々、万事を根源に帰する元々本々など、神宮相伝の御教えが語り示されています。

## ご鎮座の由緒と歴史

神宮の諸宮社の由緒はきわめて古く、奈良時代以前に遡るものが多いのですが、当宮は、格別に新しい由緒の別宮です。大きなご功績をお遺しになった倭姫命ですが、長く命をお祭りするお宮はありませんでした。江戸中期の外宮権禰宜喜早清在の『毎事問』に、神郡数万の人民は家々に倭姫命をお祭りして、その神恩に感謝するのは当然であると書かれています。古くから、郷土をお拓きになった命への地元の人々の敬慕は篤く、信仰されてきました。そこで、命の御徳をお慕いして、大正初年から、神宮司庁と宇治山田市(現伊勢市)が命をお祭りするお宮の創立を国に



皇大神宮奉祀(矢沢弦月)

請願し、大正十年(一九二二)皇大神宮別宮として当宮の創立が許可され、同十二年十一月五日御鎮座祭が執り行われました。昭和二十四年(一九四九)には「御杖代講」が結成され、現在は「倭姫宮御杖代奉賛会」として、五月五日には春の例大祭、十一月五日には秋の例大祭が執り行われています。

## 恒例のお祭り

別宮のお祭りは、いで丁重にお祭りが奉仕されています。『延喜大神宮式』に月讀宮、瀧原宮以下に對して「祈年、月次、神嘗等の祭に供えよ」とあるのをそのはじめとして、今も祈年祭、月次祭、神嘗祭、新嘗祭には皇室から幣帛が奉られます。

年中の恒例祭及び臨時祭には正宮に次いで丁重にお祭りが奉仕されています。

風日祈祭(5月)

8月4日	風日祈祭	午後10時	由貴夕大御饌
10月24日	神嘗祭	午前2時	由貴朝大御饌
11月26日	新嘗祭	午前8時	大御饌
12月24日	月次祭	午後10時	由貴夕大御饌
12月25日	月次祭	午後2時	由貴朝大御饌
12月25日	月次祭	午前10時	奉幣
2月23日	天長祭	午後10時	由貴夕大御饌
5月14日	風日祈祭	午前2時	由貴朝大御饌
6月24日	月次祭	午前10時	奉幣
2月20日	祈年祭	午前8時	大御饌
2月11日	建国記念祭	午前10時	奉幣
1月3日	元始祭	午後10時	由貴夕大御饌
1月1日	歳旦祭	午前2時	由貴朝大御饌

## 式年遷宮

神宮では二十年に二度、殿舎や御装束神宝を新たにしてお祭りやお遷りを願う神宮式年遷宮を行います。一千三百年にわたって続けられてきた神宮最大のお祭りです。『太神宮諸雜事記』によると、天平十九年

(七四七)に第四回内宮遷宮が斎行され、同年十二月に「諸別宮遷し奉りて二十年に二度の御遷宮、長例の宣旨了んぬ」との記載があり、奈良時代には現在と同じように、別宮も式年遷宮が行われていました。第六十二回神宮式年遷宮は平成二十五年秋、両正宮とそれぞれの第一別宮で行われ、倭姫宮でも、平成二十六年十二月に式年遷宮が行われました。現在の殿舎は東側の御敷地にあり、西側は古殿地となっています。



倭姫宮と古殿地(手前)